

# 機械技術

## Mechanical Engineering



### 特集 高付加価値を生むための金型加工技術

好評連載—独自技術で光る日本の機械加工現場 (株)新日本テック 代表取締役社長 和泉康夫氏

プレジジョンセンタ  
PJ303X  
5軸微細加工に革新をもたらす



## TOPICS

### (株)長谷川機械製作所、新製品を紹介する自社展を開催

工作機械メーカーの(株)長谷川機械製作所(さいたま市見沼区)は、白河工場(福島県西郷村)で新製品発表会を6月6~10日に開いた。同社が製品のプライベートショーを開催するのは初めて。多品種変量生産に対応するCNCタレット旋盤などの新機種と、5月に稼働を始めた恒温研削工場を顧客や関係者に披露した。

#### 新製品を2機種発表

「当初予想した来場者数は5日間で300人。ところが倍以上の700人もの事前登録があり、まさにうれしい悲鳴の状態。コロナ禍でずっと製品発表の機会がなかったことから、リアルの展示会が待ち望まれていたようです」。

長谷川機械製作所の長谷川大見取締役営業部長氏はこう驚きを隠さない。名古屋や九州からも来場者が駆けつけ、インフレ基調の中にあっても設備需要の底堅さを実感している。

発表した新製品、2つのタレットに対向型の2つのスピンドルを備え、工程集約を狙ったCNC旋盤の「CW42」(写真1)。さまざまな工具を搭載する2つのタレットにより、部品の表と裏の同時加工が行える。複合機仕様でタレットに回転工具によるミーリング(M)の機能と、最大ストローク60mmの上下軸(Y軸)を持たせた。オプションで振動切削機能も付けられ、モータの振動で切

りくずを分断。切りくずによる製品不良を防げる。

また、くし歯旋盤の「J40」は、前後方向(X軸)に動く刃物台のストロークを400mmと大きく取った新機種。送り速度なども、くし歯仕様でクラス最速をうたう。このほか、トクビ製作所(大阪府八尾市)との協力で、30MPaの超高压クーラント噴射ユニットも展示した(写真2)。難削材への深穴加工などに効力を発揮し、工具の刃持ちも良くなるという。

#### 恒温研削工場を新設

同社は「大は小を兼ねない」がキャッチフレーズ。小型の工作機械の特色を活かし、半導体装置装置、自動車部品、医療機器、光学部品など付加価値の高い分野にもしっかりと食い込む。スピンドル、タレットといった性能を左右するコア部品はいずれも内製だ。安定した高精度加工のため、建屋と設備に約2億円を投じて恒温研削工場を新設した。

今回展示されたCW42MYは半導体装置関連に売約済みとなり、自動車部品メーカーからも受注が入っている。ただ、「頭が痛いのは半導体不足」と長谷川取締役は話す。設備需要が高止まりする一方で、ここでも自助努力を超えたサプライチェーンの問題がネックとなっている。

(藤元 正)



写真1 CW42



写真2 30MPaの超高压クーラント噴射ユニット